

第5学年 国語科授業実践

- 1 単元名 登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう
「大造じいさんとガン」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
・思考に関わる語句の量を増し語句と語句の関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。	・描写を基に想像しながら、登場人物の心情や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	・積極的に、登場人物の心情やその変化を想像し、学習問題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

3 教材のとらえ

本教材『大造じいさんとガン』は、狩人である大造じいさんと、ガンの群れを率いる頭領「残雪」との戦いを通して、大造じいさんの残雪に対する心情が次第に変化していく様子を描いた作品である。特に情景描写が美しく、心情描写や行動描写はもちろんのこと、情景描写に表れる色彩に注目して読むことで、大造じいさんの心情の変化をより深く読み取ることができると考えられる。

高学年では、中学年までのように登場人物の「気持ち」を表面的に捉えるのではなく、心の奥にある「心情」を読み取る力を育てていく必要がある。また、場面ごとに読むのではなく、物語全体を通して内容や心情の変化を捉える力を養うことが求められる。そこで、文章全体を通して「色」に着目しながら読み進めることで、物語全体から大造じいさんの心情やその変化を多面的に考えられるようにしたい。

また、本時では「大造じいさんと残雪のその後」について考えていく。「大造じいさんは、本当に残雪とまた戦うのか」という問いをもとに話し合いを行い、物語全体から根拠となる文を探しながら、「戦う」「戦わない」「その他の考え」といった多様な考えを交流する。その中で、友達の多様な考えを知り、受容したり、時には自分の考えを再構築したりする姿を「響き合い」「高め合い」としたい。その中で児童がこの物語の魅力に気づいていくことを期待する。



6 本時の指導案

本時の目標

「大造じいさんは、本当にまた残雪と戦うのか」についての話し合いを通して、大造じいさんの心情を物語全体から読み取り、考えを広げたり、深めたりする。

学 習 活 動	・教 師 の 支 援 ◆ 評 価
1 学習問題を確認する。	・前時の内容を想起し、学習問題を確認する。
大造じいさんは、本当にまた残雪と戦うのかな？	
2 本文を音読する。 3 大造じいさんは、また残雪と本当に戦ったのか話し合う。 【戦った】 ・4の場面に、「また堂々と戦おうじゃないか」と書いてあるから、また罾を仕掛けて戦うと思う。 ・かりゅうどだから、生きていくために戦うと思う。 ・つりばり、たにし、おとりと、どんどん時間をかけて捕まえようとしてきたから戦うと思う。 ・「東の空が真っ赤に燃えて」とあるくらい、撃ちたいと思っているから撃つと思う。 ・残雪のことは、大切に育てていないから戦う。 【戦わない】 ・おとりのガンを助けてもらったから。 ・一冬も一緒にこして、はらはらとで寂しさが伝わってきたから、もう撃たない。 ・怪我をしているのに、残りの力を振り絞って首を持ち上げるくらい、堂々とした態度に心打たれたから。 ・最期のときを感じるくらいなのに、騒がなくて、ただの鳥に対しての気がしなかったから。 ・ガンの英雄だと感じたから、もう撃たない。 【戦えない】 ・そもそも、残雪はもう来ないんじゃないかな。 ・釣り針を引っ張って確認するくらい慎重だから。 ・ハヤブサと大造じいさんがいる危険な場所に、仲間を近づけるとは思えないから。 ・バシッと羽の音を立てて、一直線に飛んで行ったから、大造じいさんへの心残りはない。もう来ない。 ・おとりのガンを助けるほどに仲間思いだから、もう仲間を連れてこないと思う。 ・小屋を見つけて近寄らないくらい賢いから。 4 本時の学習を振り返る。 ・話し合いを通して考えたことをノートに書く。	・本時は本文全体に渡っての話し合いになるため、学習問題を作るきっかけになった一部分を音読するように指示する。 ・ペアトークやグループトークをして、自分の考えを確かめ、自信を持てるようにする。 ・ネーム磁石を使用し、立場(考え)をはっきりさせる。 ・描写を基に考えることができるよう、根拠が曖昧な場合には、どこからそう思ったのか問い返しをする。 ・それぞれの立場ごとに板書をすることで、何を根拠に考えたのか違いがわかるようにする。 ◆物語のその後についての話し合いを通して、大造じいさんの心情を物語全体から読み取り、想像している。 【思考・判断・表現】 ・話し合いをして分かったことや、自分の考え、考えの変容をノートに書けるよう声掛けをする。